十勝岳

1 平成 14年の活動概況

1月、3月、5月、および9月に小さな火山性微動が発生しましたが、噴煙等の表面現象に変化はありませんでした。62-2 火口は高温で活発な噴煙活動が続くなど火山活動は高いレベルを維持しています。

時期	火山活動及び業務概要
1月4日	振幅の小さい火山性微動発生(継続時間約3分)。
3月7日	振幅の小さい火山性微動発生(継続時間約4分)。
5月7日	振幅の小さい火山性微動発生(継続時間1分未満)。
6月18~20日	調査観測実施、62-2 火口 415 (赤外放射温度計)。
9月13日	上空からの観測実施(北海道開発局の協力による)。
9月17~19日	調査観測実施、62-2 火口 382 (赤外放射温度計)。
9月22日	振幅の小さい火山性微動発生(継続時間約2分)。

2 噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、大正火口や振子沢噴気孔群でも弱い噴気活動が継続しています。

3 地震活動の状況

1月4日、3月7日、5月7日、および9月22日に振幅の小さい火山性微動(継続時間1分未満~約4分)が発生しましたが、微動の前後に地震の増加はなく、表面現象にも特別な変化はありませんでした。9月7日には地震がややまとまって発生し(日回数21回)月回数も100回を超えましたが長期的に見るとこれまでの活動の範囲内です。9月7日を除いた日点の地震回数は1日あたり0~11回と平常レベルで推移しました。

月別地震・微動回数

2002 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数H点	43	42	34	30	28	14	28	28	113	96	47	54
地震回数A点	9	11	10	10	10	4	5	11	21	13	15	11
微動回数H点	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0

4 地殻変動の状況

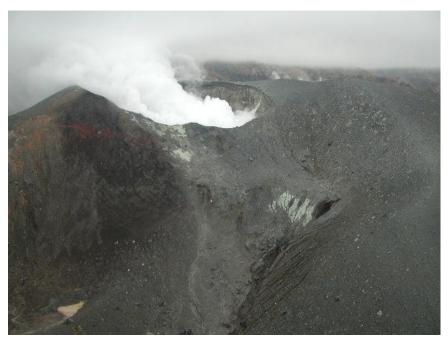
GPS観測では、火山活動に起因すると考えられる変化はありませんでした。

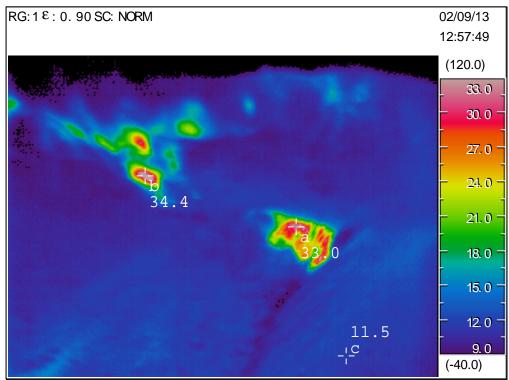
5 調査観測の結果

62-2 火口内には活発な噴気孔が多数あり、高温の火山ガスが勢いよく噴出しています。赤外放射温度計で測定した最高温度は、6 月が 415 、9 月は 382 でした。6 月の観測で地熱域の広がりが認められた 62-1 火口の東壁では、その後更に地熱域が拡大活発化する様子はありませんでした。

6 上空からの観測結果

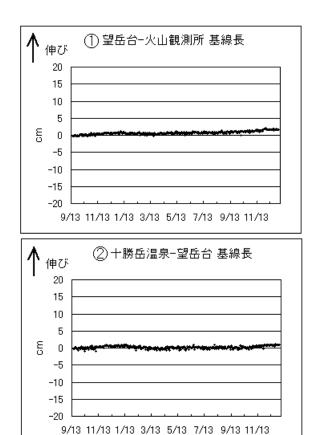
9月13日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、各火口、地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置による62-0、62-1火口周辺の状況は、次頁のとおりです。変色域に対応して地熱域が黄色~赤色の高温部として表現されています。

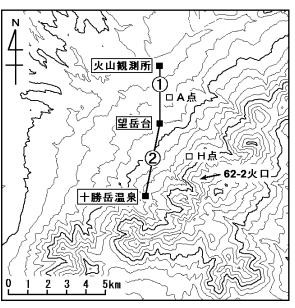




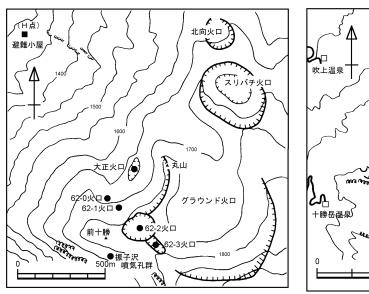
北側上空から見た 62-0、62-1 火口周辺の赤外熱映像

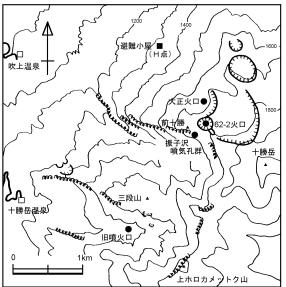
(2002 年 9 月 13 日 12 時 57 分、天気くもり:北海道開発局のヘリコプターから撮影) a:62-0 火口 33.0 、 b:62-1 火口東壁 34.4 、 c:熱異常のない斜面 11.5



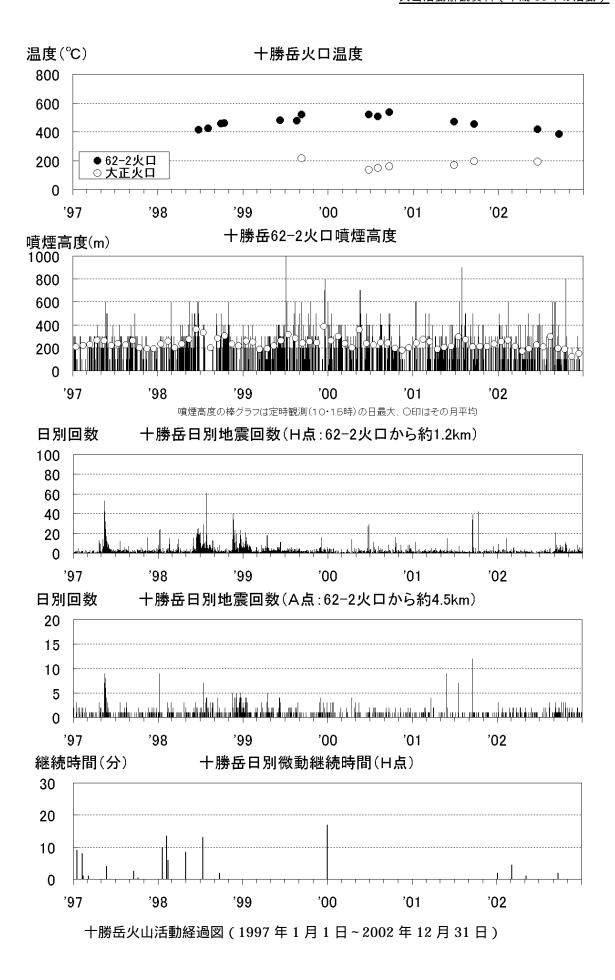


十勝岳基線長変化(2001年9月13日~2002年12月31日)

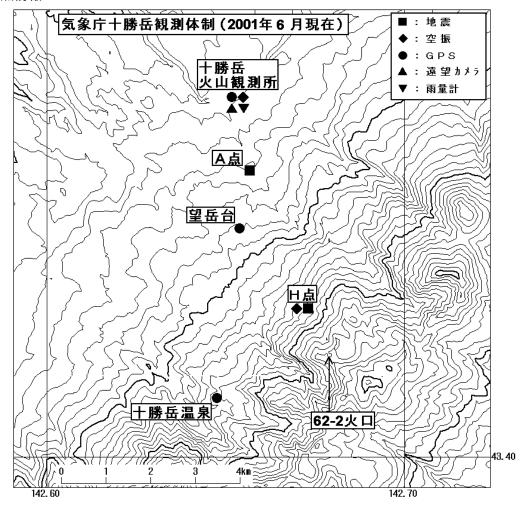




十勝岳火口周辺図



観測点情報



記号	測器種類	地点名		位置		観測開始月	備考	
10-5	ZX IIII (XX	20/11 II	緯度	経度	標高	年ルババババンロ/ J		
	地震計	A点	43 27.5	142 39.4	765	1977.10	短周期3成分	
	75/RED1	H点	43 25.8	142 40.4	1355	1997.1	短周期3成分	
卒	空振計	火山観測所	43 22.7	143 58.6	655	1989.10		
		H点	43 25.8	142 40.4	1359	1997.9		
	遠望カメラ	火山観測所	43 28.4	142 39.2	655	1989.10		
		火山観測所	43 28.4	142 39.2	659	2001.9	2 周波	
	GPS	望岳台	43 26.8	142 39.2	924	2001.9	1 周波	
		十勝岳温泉	43 24.7	142 38.8	1369	2001.9	1 周波	

(位置は日本測地系の値です)